

# Market Watching

発表日: 2019年8月13日(火)

## 米国と中国の消費は底堅さをみせるか(マーケットウィークリー)

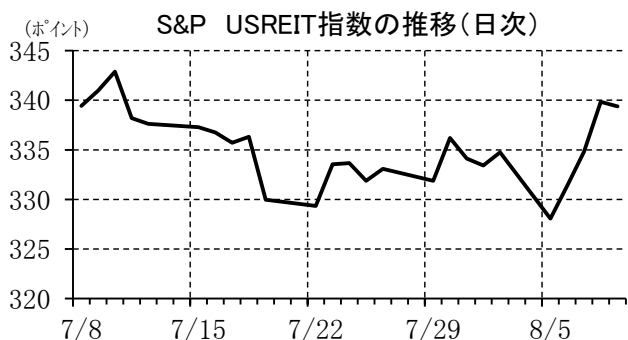
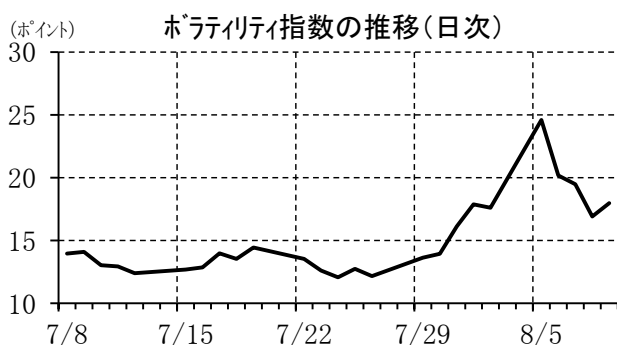
～米指標が弱めなら1ドル=105円割れも～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部  
取締役・首席エコノミスト 嶋峰 義清 (TEL: 03-5221-4521)

### 【先週の市場動向】

#### 先週の経済指標・金融政策

発表日	経済指標・会合	結果	コンセンサス	前回	備考
8月5日(月)	米国: ISM非製造業景気指数(7月)	53.7	55.5	55.1	ポイント
8月6日(火)	日本: 毎月勤労統計(6月)・現金給与総額	+0.4%	▲0.8%	▲0.2%	前年比
	日本: 家計調査(6月)・全世帯実質消費支出	+2.7%	+1.5%	+4.0%	前年比
	豪州: 金融政策委員会	1.00%	1.00%	1.00%	RBA政策金利誘導目標
8月7日(水)	NZ: 金融政策委員会	1.00%	1.25%	1.50%	オフィシャルキャップレート
	インド: 金融政策委員会	5.40%	5.50%	5.75%	レポレート
	タイ: 金融政策委員会	1.50%	1.75%	1.75%	翌日物レポ金利
8月8日(木)	日本: 国際収支統計(6月)・経常収支	+12,112	+11,744	+15,498	億円、原数値
	日本: 景気ウォッチャー調査(7月)・先行き判断DI	44.3	45.2	45.8	
	中国: 貿易統計(7月)・輸出	+3.3%	▲0.2%	▲1.3%	前年比
	中国: 貿易統計(7月)・輸入	▲5.6%	▲8.8%	▲7.3%	前年比
	フィリピン: 金融政策決定会合	4.25%	4.25%	4.50%	翌日物レポ金利
8月9日(金)	日本: 実質GDP(4-6月速報値)	+1.8%	+0.6%	+2.2%	前期比年率
8月10日(土)	—				
8月11日(日)	—				



## 主要市場の動向

	直近値	変化			移動平均値		
		1週前比	1月前比	1年前比	25日	75日	200日
10年債利回り							
米国	1.745	▲10.1	▲26.0	▲99.9	1.785	1.937	2.324
日本	-0.225	▲5.0	▲8.0	▲33.5	-0.154	-0.117	-0.042
ドイツ	-0.576	▲8.1	▲22.2	▲95.1	-0.386	-0.250	0.016
豪州	0.958	▲12.7	▲36.0	▲169.5	1.241	1.426	1.926
株価							
NYダウ	26287.44	▲0.7	▲1.9	+3.1	26882	26330	25569
日経平均	20684.82	▲1.9	▲4.1	▲8.5	21356	21338	21296
ユーロSTOXX50	3333.74	▲1.3	▲5.0	▲4.6	3462	3429	3297
上海総合	2774.75	▲3.2	▲5.2	▲0.7	2896	2923	2838
為替相場							
ドル/円	105.68	▲0.9	▲2.9	▲4.9	107.72	108.63	110.27
ユーロ/円	118.33	▲0.1	▲3.0	▲7.6	120.55	121.91	124.57
豪ドル/円	71.71	▲1.1	▲4.9	▲12.4	74.54	75.43	78.01
ユーロ/ドル	1.12	+0.8	▲0.1	▲2.8	1.119	1.122	1.130
商品市況							
WTI	54.50	▲2.1	▲5.8	▲18.4	56.48	57.58	56.21
金	1496.6	+3.5	+6.9	+23.5	1433	1362	1310

(注) 10年債利回りの変化は金利差 (bp)。その他は変化率 (%)

為替相場の変化は、ドル/円、ユーロ/円、豪ドル/円は+が円安、▲が円高。

ユーロ/ドルは+がユーロ高、▲がユーロ安。

先週 (8/3~8/9) の金融市場は、米中貿易摩擦の激化に対する懸念を引きづり、不安定な展開が続いた。株価は下げ止まりに転じたものの、金利は前週に続き大幅に低下した地域が目立った。関税の一段の引き上げリスクが高まったこともあり、米国ではFRBが次回のFOMCでも利下げを行う可能性が高まったとの見方が強まった。このほか、新興各国も相次いで利下げを実施するなど、世界的に金利低下の流れが強まった。為替市場では、ドル/円相場は一進一退となりながらも徐々に水準を切り下げ、1ドル=105円台で越週、ユーロなど他の通貨に対しても円は強含んだ。

今週のマーケットは、米中で比較的注目度の高い月次経済指標の発表が続く。中国では、前月に急反発した小売売上高の回復傾向が続くかどうか焦点。輸出環境の悪化と控えめな公共投資で、生産活動の継続的な回復は期待薄。国内消費が持ち直すかどうかは、これまで政府が取ってきた景気対策の実効性と合わせ、先行きに対する不安感はわずかでも和らぐ。米国でも底堅い消費が命綱だけに、小売売上高やミシガン大学消費者センチメントの注目度は高い。追加の関税引き上げ問題で景気に対する警戒感も強まっているだけに、弱めの結果となれば金利低下の流れは一層強まる。この場合、ドル/円相場は1ドル=105円割れの可能性が高まってくる。

## 【今週のマーケット環境】

## 今週の経済指標・金融政策

発表日	経済指標・会合	注目度	コンセンサス	前回	備考
8月12日(月)	—				
8月13日(火)	日本：企業物価指数（7月） 日本：機械受注統計（6月）・船電除く民需 米国：消費者物価指数（7月）・総合 ・コア	★ ★ ★★	+0.1% ▲1.1% +1.7% +2.1%	▲0.5% ▲3.7% +1.6% +2.1%	前月比 前年比 前年比 前年比
8月14日(水)	中国：鉱工業生産（7月） 中国：小売売上高（7月） 中国：固定資産投資（7月） ドイツ：実質GDP（4-6月速報値） ユーロ：実質GDP（4-6月改定値） ユーロ：鉱工業生産（6月）	★★ ★★★★ ★★ ★  ★	+6.0% +8.7% +5.9% 0.0% +0.2% ▲1.0%	+6.3% +9.8% +5.8% +0.4% +0.2% +0.9%	前年比 前年比 年初来前年比 前期比 前期比 前月比
8月15日(木)	ルウェー：金融政策委員会 米国：小売売上高（7月）・全体 ・除自動車 米国：鉱工業生産指数（7月） 米国：フィテラルミア連銀製造業景況感指数（8月） 米国：NY連銀製造業景況感指数（8月） メキシコ：金融政策決定会合	★ ★★★★ ★★ ★★ ★★ ★★ ★	1.25% +0.2% +0.4% +0.2% +10.0 +3.3 8.00%	1.25% +0.4% +0.4% ▲0.0% +21.8 +4.0 8.25%	中銀預金金利 前月比 前月比 前月比 ポイント ポイント 銀行翌日物金利
8月16日(金)	米国：住宅着工件数（7月） 米国：ミシガン大学消費者信頼感指数（8月速報値）	★ ★	126.0 98.0	125.3 98.4	万件 ポイント
8月17日(土)	—				
8月18日(日)	—				

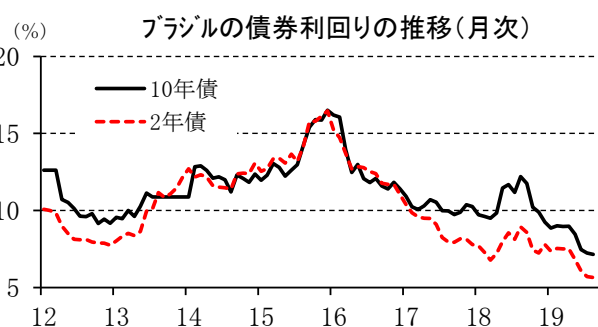
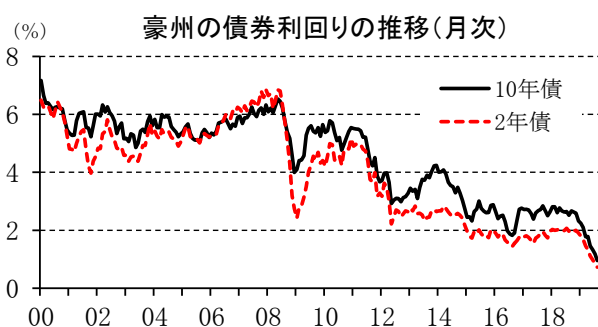
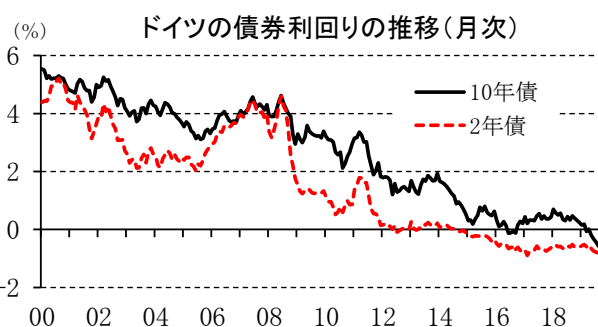
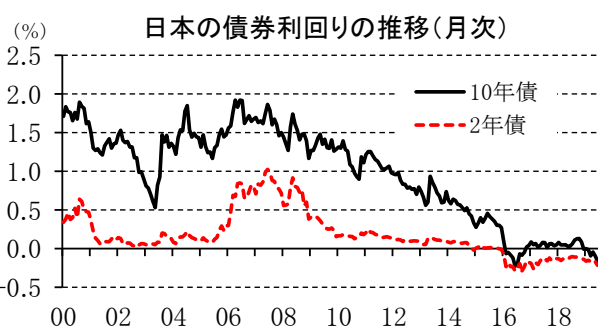
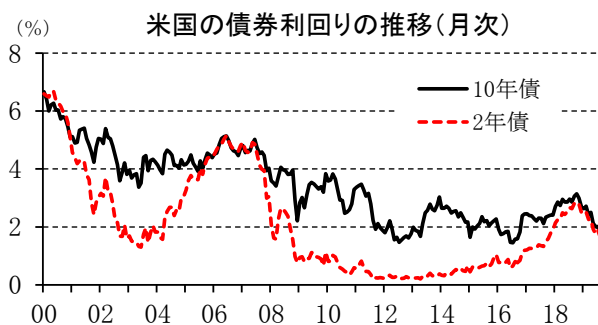
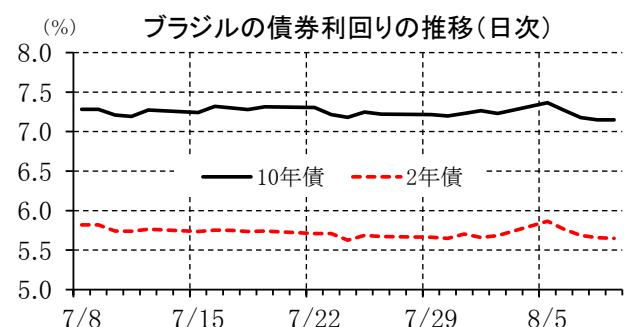
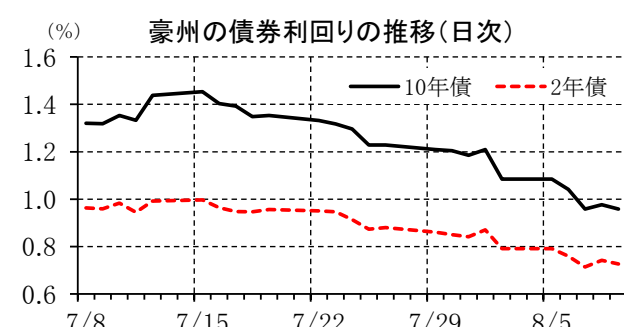
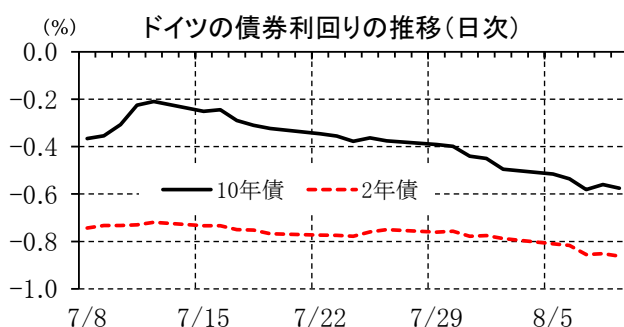
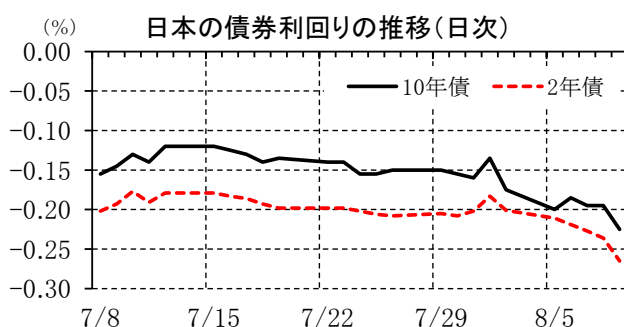
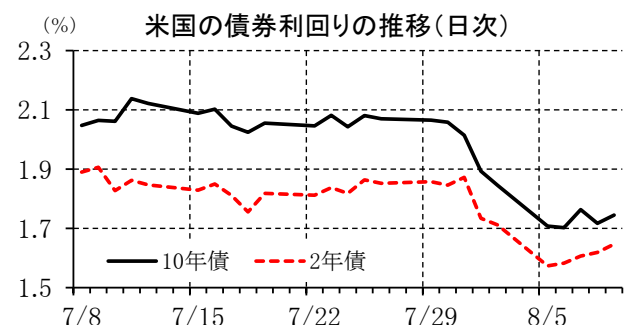
(注) 市場コンセンサスは各種ベンダー調査に基づく。注目度は筆者。

## その他の注目イベント・材料

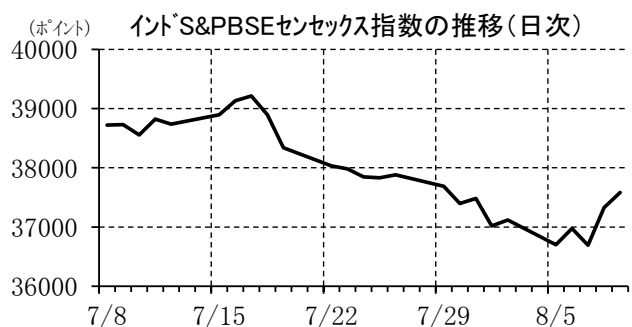
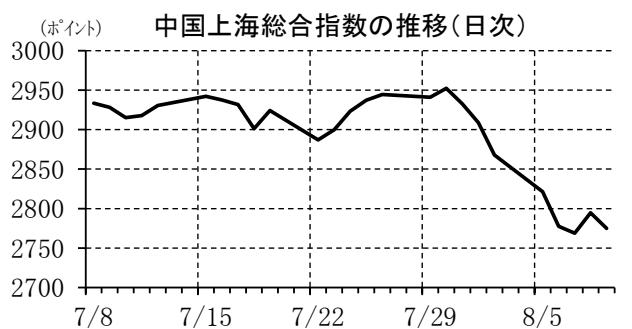
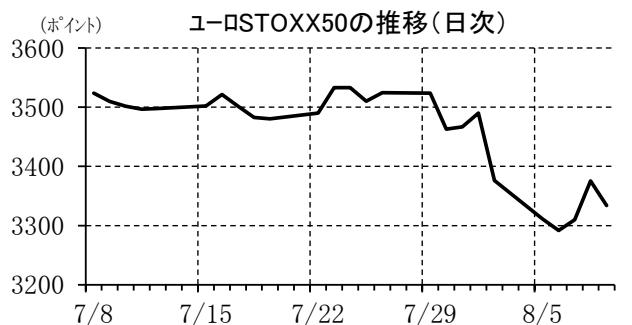
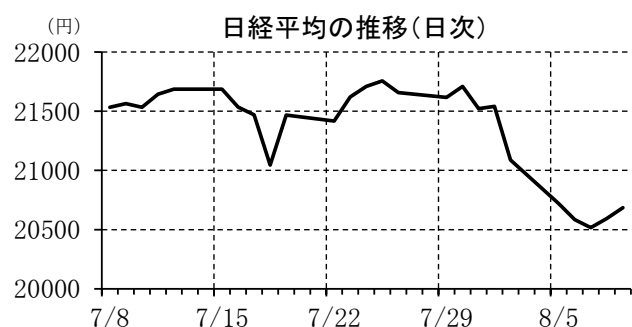
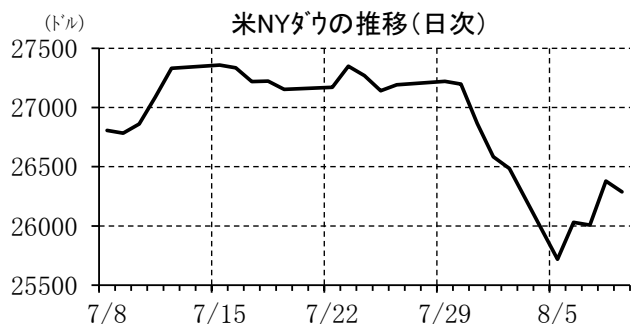
発表日	イベント	注目度	備考
8月12日(月)	—		
8月13日(火)	—		
8月14日(水)	—		
8月15日(木)	—		
8月16日(金)	—		
8月17日(土)	APEC：第3回高級実務者会合（～8/30）		
8月18日(日)	—		

(注) 各種報道等による。注目度は筆者。

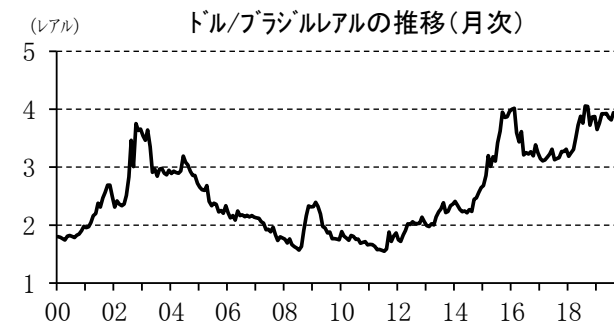
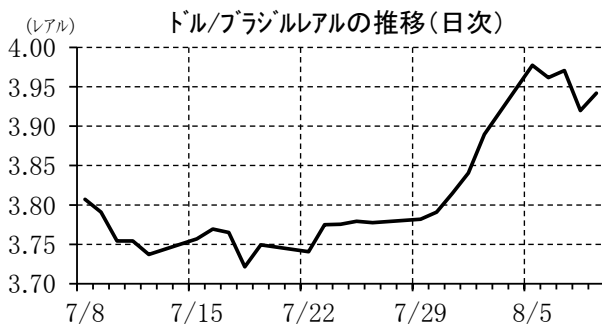
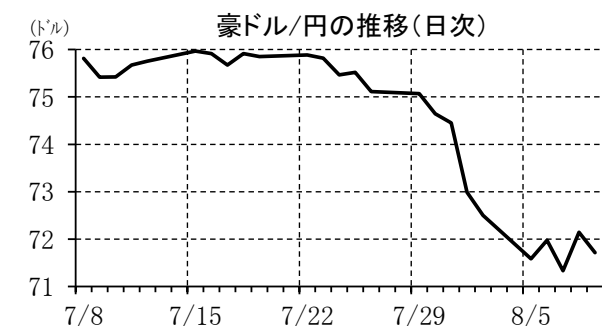
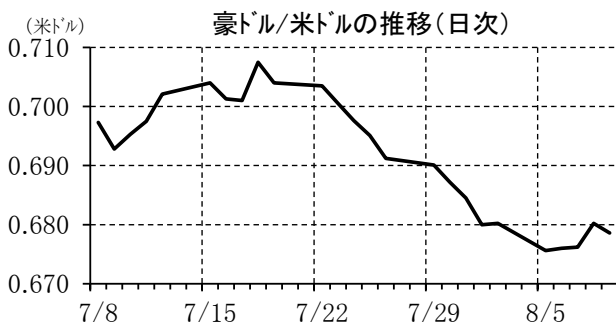
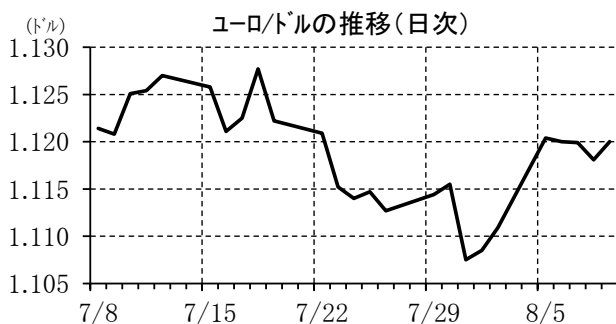
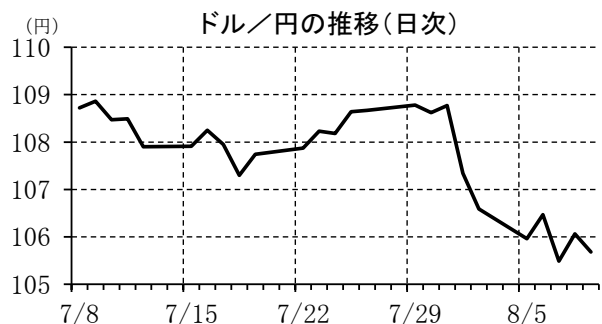
## 【債券利回り】



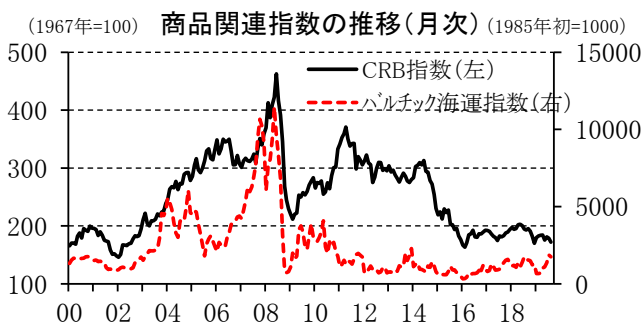
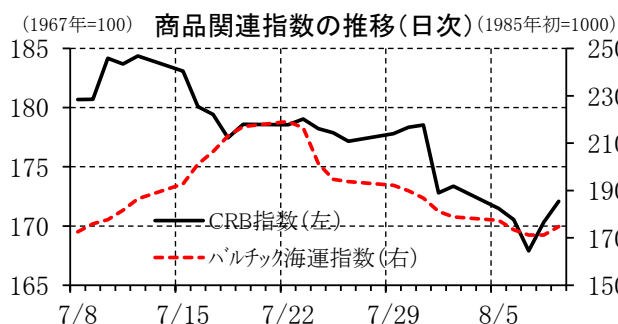
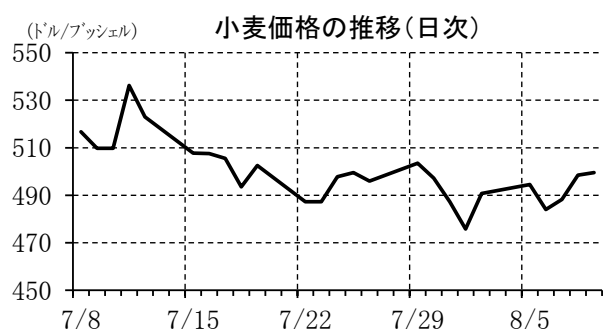
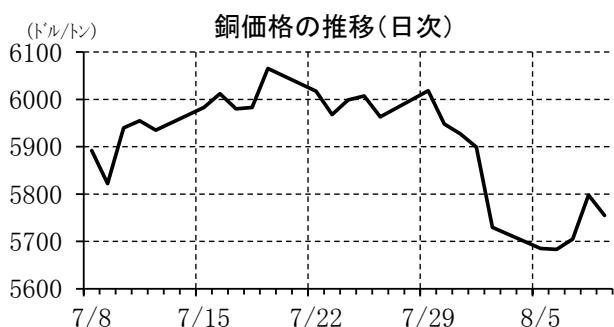
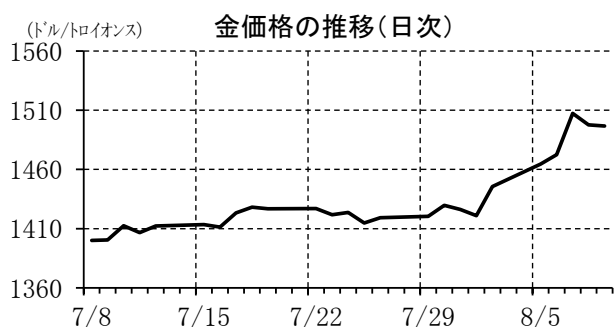
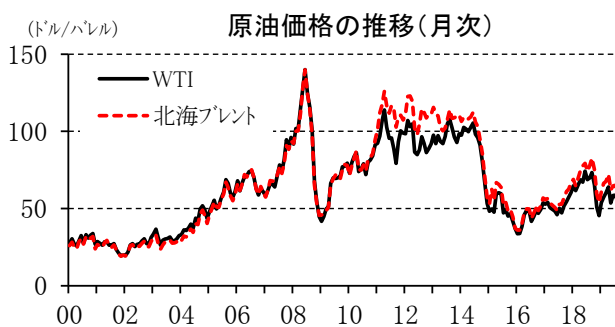
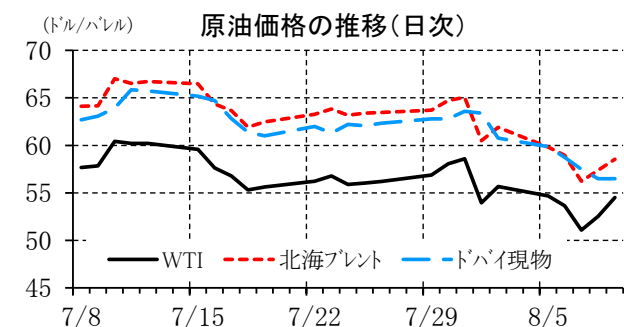
## 【株価指数】



## 【為替相場】



## 【商品市況】



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

